

市長と新成人との八幡市まちづくり座談会



平成 29 年 12 月 20 日、「市長と新成人との八幡市まちづくり座談会」を開催しました。第 5 次八幡市総合計画に次代を担う若者の意見を取り入れるため、成人式実行委員の 4 人のみなさんに、これからのまちづくりについて、次のテーマで堀口市長と語り合っていました。

もっと八幡市を好きになるには
10 年後の八幡市に望むもの
まちづくりへの関わり方



長江 宥樹 さん
(成人式実行委員長)

- ①これといって変化したことがない。
- ②夢だった教職に就き、稼いだお金を奨学金の返済に充てたい。結婚はその後。



市丸 琴 さん
(成人式実行副委員長)

- ①“大人”になるという自覚やそれに伴う責任に重みを感じる。
- ②結婚して幸せな家庭を築く。



市丸 真子 さん
(成人式実行委員)

- ①社会を支える側になる自覚を持ち、社会全体に関心を持つことの必要性。
- ②栄養士としてキャリアを積む。



小栗 旺雅 さん
(成人式実行委員)

- ①今までとは違い、少し責任感が増した。
- ②20 代の間にゲームクリエイターとして独立し、家庭を持ちたい。

今回お話しいただいたみなさん

①…新成人になって感じたこと ②…これからのライフプラン

“やわた”のこんなところが魅力

長江：私は、日々の挨拶など、地域の人々から家族のような温もりを感じられる**アットホームな雰囲気**に魅力を感じます。

小栗：大阪と京都の中間点にあり、**交通の便が良い点**も魅力的ですね。

市丸(琴)：私は、**緑が多くて空気がきれい**なところが魅力的だと思います。

市丸(真)：有名な石清水八幡宮があり、**多くの観光客で賑わって**

る一方で、のどかな風景が今なお残っている点も良いですね。

市長：交通の便について、鉄道網は市北部しか通っていないため、必ずしも便利とは言えませんが、道路網に関しては府道京都守口線、国道 1 号線など京都—大阪間をつなぐ路線が複数あり、間違いなく便利と言えます。交通至便でありながら農地面積が多い自治体は珍しく、そこは一つの魅力と言うことができるのではないのでしょうか。

10 年後の八幡市と私たちのこれから

地域のつながりを守り、伝えたい

長江：私は、今あるやわたの「アットホームな雰囲気」をこれからも守っていきたくし、**これから先、八幡市を離れることがあっても、帰ってきたときに「ホッ」と安心できるまちであり続けてほしい**と思っています。そのためにも、**日常生活のなかでそうした地域のつながりを大切にしたい**と考えています。

小栗：小さいころの話ですが、**地域の祭りを住民が一丸となって盛り上げようと取り組んでいたのが印象的**でした。そうした**地域のつながり**や

地域の活力はとても大切だと思います。

市長：頼もしいですね。ただ、**現役世代の方々は仕事もあり、地域活動に参加するといっても限界がある**と思います。何も中心になって活動するばかりが全てではないと思うので、「**できる範囲でちょこっとだけ関わる**」**ということを大切に**してみてください。

長江：まずは、地域との交流を大切にしたり、地域の催しに積極的に参加することで、少しずつ貢献していこうと思います。

みんなが健康に暮らせるまちにしたい

市長：市は現在、「健康づくり」に重点的に取り組んでいます。みなさんは若いので大丈夫だと思いますが、**リタイアしてからいきなり運動しようと思っても無理**があるので、**40代・50代のうちから出歩く習慣づけを**してもらいたいと思うし、**いつでも歩いて出やすいまちづくりをしていく必要がある**と考えています。

市丸(琴)：運動するといえば、飼い犬の散歩くらいです。社会人になってから運動する機会がほとんどなくなってしまいました。

市長：生活習慣として運動は大事ですが、琴さんが言われたように、社会人になるとその機会は極端に少なくなります。ある時期を過ぎたら、強制的にでも運動しなければ、健康を維持するのは難しいんです。

市丸(真)：私は**栄養士を目指している**ので、**子どもから高齢者までが健康で幸せに暮らせるまちづくりに、食事の面で少しでも貢献できれば**と考えています。個人的には、市長が言われたように自主的に運動するなど、**自分の健康を自身で維持できる社会が理想**ですね。

「新しいことにチャレンジする」活力あるまちであってほしい

小栗：大阪からも京都からも交通アクセスが良い点や2021年の文化庁京都移転を好機と捉え、新しい産業でまちを活性化できないかと考えています。私はゲームクリエイターになり、将来独立したいと考えていることもあり、個人的にはアニメ・ゲームなどのコンテンツ産業がよいと思います。

市長：コンテンツ産業にはあまり詳しくありませんが、そうした産業によりまちの活性化を図っていくなら、小栗さん自身はどのように関わっていけると思いますか？

小栗：**自身の仕事を通じて、市で新しいコンテンツを立ち上げる際の企画や広報などに**関わりたいですし、そのようなことを通じて**やわたの活性化に少しでも役立てれば**と思います。

市長：将来は独立したいという話もあり、たいへん頼もしく感じます。なかなか報われない困難なこともあるかとは思いますが、ぜひ前向きにチャレンジしてほしいと思います。

安心して暮らせるまちであってほしい

市丸(琴)：**「八幡市 = 治安が悪い」と周りに思われていることがよくあります。そのマイナスイメージを払拭していけば、市としての魅力がもっと上がり、自信を持って八幡市民と言える人が増えるのではない**でしょうか。

市丸(真)：街灯の少ない道では、暗くて怖いと感じることもあるので、街灯設置などもっと安全対策をしてもらえたら、と思います。

市長：街灯のLED化により、以前に比べると明るくはなっていますが、

先ほど述べた「いつでも歩いて出やすいまちづくり」のためにも、みなさんが安心して歩けるよう取り組んでいく必要があると考えています。

市丸(琴)：**「怖い」というまちのイメージを払拭し、誰もが安心して暮らせるまちになってほしい**と思います。そのためにも、当然のことながら**マナーを守ったり、近所の人とつながり**を保つなど、**地域の一員としてできることを着実に実践して**いきたいです。



おわりに

座談会を通じて

市丸(琴)：若い力は非常に大事だと自認しています。一方で、年を重ねるごとに八幡市を離れる若者が増えていっているのも事実だと思います。そんな**若者がまた「八幡に帰ってきたい」と思えるよう、学校をはじめ様々な場所で市への愛着が芽生えるような取組を推進して**いただきたいと思います。

市長から新成人へのメッセージ

市長：みなさんがどのようにまちづくりに関わっていききたいか、しっかり考えられていることは素晴らしいと思います。若い間の失敗はのちの人生において**必ず糧になりますし、これからも夢を持ち続け、チャレンジして**いてください。みなさんのお話を聞いて、**私も夢のあるまちづくりをして**いきたい、**と**思いを新たにしました。

